シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	トレーナー理論Ⅱ		
必修選択	必修	（学則表記）	トレーナー理論Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2 年次	学科	鍼灸科　昼間部	2	32
使用教材	トレーニング指導者テキスト【理論編】改訂版 認定トレーニング指導者模擬問題集改訂版		出版社	大修館書店	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	1 年次に学んだ理論の知識をより深め、現場で活用できるようにする。
到達目標	1 年次に学んだ理論の知識をより深め、現場で活用できる。
評価基準	テスト、レポート、授業態度などにより総合的に勘案した結果を基に判定する。
認定条件	出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 成績評価が 3 以上の者
関連資格	はり師・きゅう師、ＪＡＴＩ認定トレーニング指導者（ＪＡＴＩ-ＡＴＩ）
関連科目	トレーナー理論Ⅰ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	平間 康允　　実務経験　○
実務内容	北海道内の高校野球部でのトレーニング指導を行っている。

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	6 章運動と心理 2 節スポーツ選手の競技力向上への活用	試合中の気持ちの切り替え、選手を取り巻く人たちに対して
2	6 章運動と心理 3 節一般人の健康増進への活用	各種スポーツとメンタルヘルス、メンタルヘルスと運動・スポーツ
3	6 章運動と心理 4 節一般人の健康増進への活用	メンタルヘルスとスポーツ外傷、青少年スポーツと女性のダイエット
4	6 章運動と心理 5 節一般人の健康増進への活用	社会生活とメンタルヘルス、カウンセリング、体育・スポーツの指導者
5	7 章運動と医学 1 節救急処置法	外傷の応急処置（皮膚などに傷のないケガの処置）、創傷の応急処置（皮膚などに傷のあるケガの処置）
6	7 章運動と医学 2 節救急処置法	緊急時の一次救命処置（BLS）、頭頚部外傷時の救急処置

7	7 章運動と医学 2 節スポーツ選手の整形外科的傷害と予防	スポーツ傷害とは、足部・足関節の傷害
8	7 章運動と医学 2 節スポーツ選手の整形外科的傷害と予防	下腿部の傷害、膝関節の傷害
9	7 章運動と医学 2 節スポーツ選手の整形外科的傷害と予防	大腿部の傷害、腰部の傷害
10	7 章運動と医学 2 節スポーツ選手の整形外科的傷害と予防	肩関節の傷害
11	7 章運動と医学 2 節スポーツ選手の整形外科的傷害と予防	肘関節の傷害、手関節の傷害
12	7 章運動と医学 3 節生活習慣病とその予防	生活習慣病予防と身体活動・運動、肥満
13	7 章運動と医学 3 節生活習慣病とその予防	糖尿病、脂質異常症、高血圧症
14	8 章運動指導の科学 1 節運動指導の科学	動作の成り立ち、 神経系の発達、動作の習得、指導の対象
15	8 章運動指導の科学 1 節運動指導の科学	練習の方法と内容
16	前期末試験前まとめ	前期末試験のフィードバック

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	実技	科目名	トレーナー実践Ⅱ		
必修選択	必修	（学則表記）	トレーナー実践Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2 年次	学科	鍼灸科　昼間部	1	32
使用教材	・トレーニング指導者テキスト【実践編】改訂版 ・認定トレーニング指導者模擬問題集改訂版		出版社	大修館書店	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	・1 年次に学んだ実践の知識をより深め、現場で活用できるようにする。
到達目標	・1 年次に学んだ実践の知識をより深め、現場で活用できる。
評価基準	テスト、レポート、授業態度などにより総合的に勘案した結果を基に判定する。
認定条件	・出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 ・成績評価が 3 以上の者
関連資格	・ＪＡＴＩ認定トレーニング指導者（ＪＡＴＩ-ＡＴＩ）・柔道整復師・はり師・きゅう師
関連科目	トレーナー理論Ⅱ、トレーナー実技Ⅱ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	阿部 修久　　実務経験　○
実務内容	(株)ABC Supporter 代表取締役 / 健康運動指導士・鍼灸師・中高一種教諭（保健体育）・JATI-ATI・CSCS 等/ 高校の部活動でトレーニング指導やコンディショニング指導を行うトレーナーであり、パーソナルトレーナーとしても活動している。また鍼灸師でもあり治療技術も持つトレーナーである。

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	3 章：各種トレーニング法の実際 1 節：筋力トレーニングの実際	筋力トレーニングの実施に当たって
2	3 章：各種トレーニング法の実際 2 節：パワー向上トレーニングの実際	筋力トレーニングの代表的エクササイズの実技と指導、クイックリフト
3	3 章：各種トレーニング法の実際 2 節：パワー向上トレーニングの実際	ジャンプ系エクササイズ、プライオメトリクス、フィットネス分野でのパワートレーニング
4	3 章：各種トレーニング法の実際 3 節：持久力向上トレーニングの実際	持久力向上トレーニングを安全に実施するガイドライン、持久力を向上させる代表的トレーニング手段

5	３章：各種トレーニング法の実際 ４節：持久力向上トレーニングの実際	持久力を向上させる代表的トレーニング方法、持久力に関するトレーニング及び環境
6	３章：各種トレーニング法の実際 ４節：スピード向上トレーニングの実際	スピードの概念
7	３章：各種トレーニング法の実際 ５節：スピード向上トレーニングの実際	スピード向上トレーニングの基本動作
8	３章：各種トレーニング法の実際 ６節：スピード向上トレーニングの実際	スピード向上トレーニングのエクササイズ、ドリルの運用まとめ
9	３章：各種トレーニング法の実際 ５節：柔軟性向上トレーニングの実際	スタティックストレッチング、パートナーストレッチング、ダイナミックストレッチング、器具を使用したストレッチング、ウォームアップ
10	３章：各種トレーニング法の実際 ６節：柔軟性向上トレーニングの実際	スタティックストレッチング、ダイナミックストレッチングの実際
11	４章：トレーニング効果の測定と評価 １節：トレーニング効果の測定と評価の実際	トレーニング指導における測定と評価の意義と目的、測定の一般的留意点、測定と評価の実際
12	４章：トレーニング効果の測定と評価 ２節：　測定データの活用とフィードバックの実際	測定データを活用するための準備、データの特徴を把握するための記述統計、ランキングや得点化による評価法、データ間の関係を把握するための相関分析と回帰分析、統計的仮説検定の基礎、トレーニング指導における測定データのフィードバック フィードバック
13	５章：トレーニングの運営と情報活用 １節：トレーニングの運営	トレーニング機器・器具、トレーニング環境、リスクマネジメント
14	５章：トレーニングの運営と情報活用 ２節：運動指導のための情報収集と活用	情報とは、情報の活用、情報の取り扱い
15	試験対策	試験対策問題、解答
16	前期末試験のフィードバック	前期末試験のフィードバック

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	実技	科目名	トレーナー実技Ⅱ		
必修選択	必修	（学則表記）	トレーナー実技Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2 年次	学科	鍼灸科　昼間部	1	32
使用教材	トレーニング指導者テキスト【理論編】改訂版 認定トレーニング指導者模擬問題集改訂版		出版社	大修館書店	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	1 年次に学んだ実技の知識をより深め、現場で活用できるようにする。
到達目標	1 年次に学んだ実技の知識をより深め、現場で活用できる。
評価基準	テスト、レポート、授業態度などにより総合的に勘案した結果を基に判定する。
認定条件	出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 成績評価が 3 以上の者
関連資格	はり師・きゅう師、ＪＡＴＩ認定トレーニング指導者（ＪＡＴＩ-ＡＴＩ）
関連科目	トレーナー実技Ⅰ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	平間 康允　　実務経験　○
実務内容	北海道内の高校野球部でのトレーニング指導を行っている。

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	スピードトレーニング	実施と指導上の留意点
2	スピードトレーニング	ランニングスピード向上のトレーニング
3	スピードトレーニング	アジリティ向上トレーニング
4	バランス能力・姿勢維持能力向上のトレーニング	実施と指導上の留意点
5	バランス能力・姿勢維持能力向上のトレーニング	静的なバランス能力・姿勢支持能力向上のトレーニング
6	バランス能力・姿勢維持能力向上のトレーニング	動的なバランス能力・姿勢支持能力向上のトレーニング

7	バランス能力・姿勢維持能力向上のトレーニング	その他のバランス能力・姿勢支持能力向上のトレーニング
8	ウォームアップのための運動	実施と指導上の留意点
9	ウォームアップのための運動	セルフエクササイズ系
10	ウォームアップのための運動	ウォーキング系、スキップ系
11	ウォームアップのための運動	ステップ系
12	ウォームアップのための運動	バランス系
13	ウォームアップのための運動	スピード系
14	ウォームアップのための運動	実施と指導上の留意点
15	形態・体力測定	形態測定、体力測定
16	前期末試験のフィードバック	前期末試験のフィードバック

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	機能訓練指導員理論		
必修選択	必修	（学則表記）	機能訓練指導員理論		
開講				単位数	時間数
年次	2 年次	学科	鍼灸科　昼間部	2	32
使用教材	健康運動実践指導者養成用テキスト 第 8 刷		出版社	健康・体力づくり事業財団	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	機能訓練指導員に必要な基礎理論を学ぶ
到達目標	機能訓練指導員に必要な基礎理論を説明できる
評価基準	テスト、レポート、授業態度などにより総合的に勘案した結果を基に判定する。
認定条件	出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 成績評価が 3 以上の者
関連資格	鍼灸師、機能訓練指導員
関連科目	機能訓練指導員 実践
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	川端 里香　　実務経験
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	健康づくり施策概論	健康と健康増進の概念
2	健康づくり施策概論	我が国の現状と健康づくり施策
3	健康づくり施策概論	生活習慣病とメタボリックシンドローム
4	健康づくり施策概論	介護予防について、メディカルチェックについて
5	運動生理学	運動の発現、筋収縮の様式と筋力
6	運動生理学	運動に伴う呼吸循環機能の変化

7	運動生理学	運動時の酸素利用
8	運動生理学	トレーニングによる呼吸循環系の適応、運動と血液・体液
9	栄養摂取と運動	健康と栄養、運動時におけるエネルギー源
10	栄養摂取と運動	エネルギー消費量の推定法
11	栄養摂取と運動	適切な減量生活
12	栄養摂取と運動	日本人の食事摂取基準と食生活指針
13	体力測定と評価	無酸素性能力の測定、有酸素性能力の測定、最大酸素摂取量の測定
14	体力測定と評価	体脂肪量の測定、新体力テスト、健康づくりのための運動指針
15	試験前授業	試験前対策
16	試験後授業	試験後の振り返り
17	健康づくりと運動プログラム	健康づくりのための身体活動基準、健康づくりのためのトレーニングの原則
18	健康づくりと運動プログラム	運動プログラムの作成上のポイント
19	健康づくりと運動プログラム	運動プログラム作成の基礎
20	健康づくりと運動プログラム	ウォームアップとクールダウン、有酸素性運動とその効果
21	運動指導の心理学的基礎	運動実践にかかわる社会・心理・環境的要因
22	運動指導の心理学的基礎	運動実践によって得られる効果、運動の採択、継続及び停止の予防
23	運動指導の心理学的基礎	多くの参加者を得るための留意点、指導と受講のミスマッチと解決方法
24	運動指導の心理学的基礎	個別指導における動機づけとカウンセリング
25	健康づくり運動の実際	健康運動実践指導者に必要な能力

26	健康づくり運動の実際	運動指導の流れ
27	健康づくり運動の実際	ウォームアップとクールダウン
28	健康づくり運動の実際	ストレッチング、ウォーキング、水泳・水中運動
29	運動障害と予防・救急処置	運動中止の判定
30	運動障害と予防・救急処置	救急処置
31	試験前授業	試験前対策
32	試験後授業	試験後の振り返り

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	実技	科目名	機能訓練指導員実践		
必修選択	必修	（学則表記）	機能訓練指導員実践		
開講				単位数	時間数
年次	2 年次	学科	鍼灸科　昼間部	1	32
使用教材	健康運動実践指導者養成用テキスト 第 8 刷		出版社	健康・体力づくり事業財団	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	機能訓練指導員に必要な知識や指導技術などを学ぶ
到達目標	・機能訓練指導員に必要な指導技術を実践できる
評価基準	テスト、レポート、授業態度などにより総合的に勘案した結果を基に判定する。
認定条件	・出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 ・成績評価が 3 以上の者
関連資格	機能訓練指導員・柔道整復師・はり師・きゅう師
関連科目	機能訓練指導員理論
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	阿部 修久　　実務経験　○
実務内容	(株)ABC Supporter 代表取締役 / 健康運動指導士・鍼灸師・中高一種教諭（保健体育）・JATI-ATI・CSCS 等/ 高校の部活動でトレーニング指導やコンディショニング指導を行うトレーナーであり、パーソナルトレーナーとしても活動している。また鍼灸師でもあり治療技術も持つトレーナーである。

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	機能訓練指導員の業務	機能訓練指導員の業務内容、働く場所、
2	障害のとらえ方、実施計画書	ICIDH、ICF、個別機能訓練実施計画書の内容
3	機能訓練の評価方法	バーセルインデックス、FIM、疼痛の評価、姿勢バランスの評価、ロコモ度テスト
4	機能訓練時における実技Ⅰ	機能訓練における実技Ⅰ①
5	機能訓練時における実技Ⅰ	機能訓練における実技Ⅰ②

6	機能訓練時における実技Ⅰ	機能訓練における実技Ⅰ③
7	機能訓練における実技Ⅱ	機能訓練における実技Ⅱ①
8	機能訓練における実技Ⅱ	機能訓練における実技Ⅱ②
9	機能訓練における実技Ⅲ	機能訓練における実技Ⅲ①
10	機能訓練における実技Ⅲ	機能訓練における実技Ⅲ②
11	機能訓練における介助について	機能訓練における介助方法と実技
12	機能訓練における口腔ケアについて	機能訓練における口腔ケアについて
13	福祉用具・補装具について	福祉用具・補装具について
14	機能訓練における実技Ⅳ	機能訓練における実技Ⅳ
15	試験対策	試験対策
16	後期末試験のフィードバック等	後期末試験のフィードバック等

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	生理学Ⅱ		
必修選択	必修	（学則表記）	生理学Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2 年次	学科	鍼灸科　昼間部	2	32
使用教材	生理学 第 3 版		出版社	医歯薬出版株式会社	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	現代医学の基礎となる生理機能を学び、正常状態での生体の機能を習得する。
到達目標	正常な人体の生理機能について説明できる
評価基準	テスト、レポート、授業態度などにより総合的に勘案した結果を基に判定する。
認定条件	出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 成績評価が 3 以上の者
関連資格	はり師・きゅう師
関連科目	生理学Ⅰ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	古川 茂　　実務経験　○
実務内容	学校付属鍼灸院にて臨床に従事。

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	教科書第 1 章の復習・問題演習	生理学の基礎の復習
2	教科書第 2 章の復習・問題演習	循環の復習
3	教科書第 3 章の復習・問題演習	呼吸の復習
4	教科書第 4 章の復習・問題演習	消化と吸収の復習
5	教科書第 5 章の復習・問題演習	代謝の復習
6	教科書第 6 章の復習・問題演習	体温の復習

7	教科書第 7 章の復習・問題演習	排泄の復習
8	教科書第 8 章の復習・問題演習	内分泌系の復習
9	教科書第 9 章の復習・問題演習	生殖・成長と老化の復習
10	教科書第 10 章の復習・問題演習	神経の復習
11	教科書第 11・12 章の復習・問題演習	筋、運動の復習
12	教科書第 13 章の復習・問題演習	感覚の復習
13	教科書第 14 章の復習・問題演習	生体の防御機構の復習
14	教科書第 15 章の復習・問題演習	身体活動の協調の復習
15	期末試験前の統括	授業のまとめ
16	総まとめ	テストの振り返りと総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	運動学		
必修選択	必修	（学則表記）	運動学		
開講				単位数	時間数
年次	2 年次	学科	鍼灸科　昼間部	2	32
使用教材	リハビリテーション医学 第 4 版		出版社	医歯薬出版株式会社	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	運動学の基礎知識を学ぶ。
到達目標	人の動き・動作のメカニズムを述べることができる。 身体各部位の機能について述べることができる。 各関節に作用する筋の作用を述べることができる。
評価基準	テスト、レポート、授業態度などにより総合的に勘案した結果を基に判定する。
認定条件	出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 成績評価が 3 以上の者
関連資格	はり師、きゅう師
関連科目	
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	高田 雄一　　実務経験　○
実務内容	運動器理学療法、特に徒手療法とインソール（足底板）に従事。

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	運動学の基礎	関節と運動の力学
2	運動学の基礎	姿勢とその異常
3	運動学の基礎	運動路と感覚路
4	運動学の基礎	反射と随意運動
5	身体各部の機能	脊柱・体幹の機能

6	身体各部の機能	肩甲帯・肩の機能
7	身体各部の機能	肘と前腕の機能
8	身体各部の機能	手と手指の運動
9	身体各部の機能	骨盤と股関節の機能
10	身体各部の機能	膝関節の機能
11	身体各部の機能	足の機能
12	身体各部の機能	正常歩行と異常歩行
13	身体各部の機能	顔面および頭部の筋
14	期末試験前の統括	授業のまとめ
15	期末試験前の統括	授業のまとめ
16	期末試験の解答と解説	解答と解説

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	病理学概論		
必修選択	必修	（学則表記）	病理学概論		
開講				単位数	時間数
年次	2 年次	学科	鍼灸科　昼間部	2	32
使用教材	病理学概論		出版社	医歯薬出版株式会社	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	全身の各臓器に共通する病的変化や疾病の成り立ちについて基本的な知識を習得する。
到達目標	循環障害、代謝異常、炎症と免疫異常などによる病変について説明できる。 「がん」について説明できる。 疾病と年齢との関連について説明できる 各臓器の疾病の特徴を説明できる。
評価基準	テスト、レポート、授業態度などにより総合的に勘案した結果を基に判定する。
認定条件	出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 成績評価が 3 以上の者
関連資格	はり師・きゅう師
関連科目	臨床医学総論、臨床医学各論
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	丸川 活司　　実務経験　○
実務内容	北海道医療大学医療技術学部臨床検査学科 臨床検査技師。

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	オリエンテーション、病理学序論	病理学序論・歴史、疾病の概念・分類・症候と経過
2	病因論	遺伝・免疫などの内因、感染症などの外因
3	循環障害	充血、うっ血、貧血・虚血、出血
4	循環障害	血栓症、塞栓症、梗塞
5	循環障害	水腫・浮腫・脱水症、ショック

6	退行性病変	萎縮、変性
7	退行性病変	壊死と死
8	進行性病変	肥大と増殖
9	進行性病変	再生、化生、移植、創傷治癒・組織内異物の処理
10	炎症	炎症の一般、分類
11	腫瘍	腫瘍の一般
12	腫瘍	良性腫瘍、悪性腫瘍
13	免疫異常・アレルギー	液性免疫と細胞性免疫、アレルギー、免疫不全、自己免疫異常
14	先天性異常	先天性異常総論、遺伝性疾患、染色体異常
15	期末試験前の統括	授業のまとめ
16	総まとめ	テストの振り返りと総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	臨床医学総論		
必修選択	必修	（学則表記）	臨床医学総論		
開講				単位数	時間数
年次	2 年次	学科	鍼灸科　昼間部	4	64
使用教材	臨床医学総論 第 2 版		出版社	医歯薬出版株式会社	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	身体診察の知識や方法を幅広く学び、鍼灸臨床での疾患鑑別能力を向上させる。
到達目標	身体診察の方法を説明できる。 疾患の鑑別ができる。
評価基準	テスト、レポート、授業態度などにより総合的に勘案した結果を基に判定する。
認定条件	出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 成績評価が 3 以上の者
関連資格	はり師、きゅう師
関連科目	臨床医学各論
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	村田 清貴　　実務経験　○
実務内容	千歳むらた鍼灸院にて臨床に従事。

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	診察の概要	診察の意義、診察の一般的心得、関連用語の理解、診察法の種類、診察の順序、記録の目的と内容
2	診察の方法	医療面接、視診、触診、打診、聴診、測定法、神経系の診察
3	生命徴候の診察	体温、脈拍、血圧、呼吸
4	全身の診察	顔貌・顔色、精神状態、身体計測、体形・体格、栄養状態、姿勢と体位
5	全身の診察	歩行、皮膚・粘膜・皮下組織、爪の状態リンパ節、その他の一般的状態
6	局所の診察	頭部、顔面、目、鼻

7	局所の診察	耳、口腔、頚部、胸部、乳房、肺、胸膜
8	局所の診察	心臓、腹部、背部、四肢
9	神経系の診察	感覚検査法、反射検査、脳神経系の検査、髄膜刺激症状検査、その他の検査
10	運動機能検査	運動麻痺筋肉の異常、不随意運動、協調運動
11	運動機能検査	起立と歩行、関節可動域検査、徒手筋力検査法、日常生活動作、徒手による整形外科学的検査法
12	その他の診察	救急時の診察、女性の診察、小児の診察、高齢者の診察
13	臨床検査法	一般検査、血液性化学検査、生理学的検査および画像診断の概要
14	主な症状の診察法	頭痛、顔面痛、歯痛
15	主な症状の診察法	眼精疲労、鼻閉・鼻汁
16	総括	前期授業のまとめ
17	主な症状の診察法	めまい、耳鳴り、難聴
18	主な症状の診察法	咳・痰、息切れ、動悸
19	主な症状の診察法	胸痛、腹痛、便秘、下痢
20	主な症状の診察法	月経異常、不正性器出血
21	主な症状の診察法	排尿障害、乏尿・無尿、多尿、浮腫
22	主な症状の診察法	肩こり、頚肩腕痛、肩関節痛、上肢痛
23	主な症状の診察法	腰下肢痛、関節痛、運動麻痺
24	主な症状の診察法	食欲不振、肥満、やせ
25	主な症状の診察法	発熱、のぼせ・冷え

26	主な症状の診察法	不眠、疲労・倦怠
27	主な症状の診察法	発疹、ショック、出血傾向
28	主な症状の診察法	易感染性、貧血、眼震
29	主な症状の診察法	口渇、嗄声、嚥下困難
30	主な症状の診察法	血痰・喀血、胸水、悪心嘔吐
31	主な症状の診察法	吐血・下血、意識障害
32	総括	後期授業のまとめ

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	臨床医学各論		
必修選択	必修	（学則表記）	臨床医学各論		
開講				単位数	時間数
年次	2 年次	学科	鍼灸科　昼間部	5	80
使用教材	臨床医学各論		出版社	医歯薬出版株式会社	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	疾患に対する幅広い知識を身につけ、鍼灸臨床での鑑別能力や患者を理解する能力を向上させる。
到達目標	疾患の概念・疫学・成因と病態生理・症状・診断・治療・予後を理解する。 患者が訴える症状に対し、鍼灸適応か不適応かの判断ができるようになる。
評価基準	テスト、レポート、授業態度などにより総合的に勘案した結果を基に判定する。
認定条件	出席が総時間数の３分の２以上ある者 成績評価が３以上の者
関連資格	はり師、きゅう師
関連科目	臨床医学総論
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	冨永 敦　　実務経験　○
実務内容	明治国際医療大学大学院附属鍼灸センター、学校附属鍼灸院にて臨床に従事。

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	整形外科疾患	関節疾患
2	整形外科疾患	骨代謝性疾患・骨腫瘍
3	整形外科疾患	筋・腱疾患
4	整形外科疾患	形態異常・脊柱疾患
5	整形外科疾患	脊髄損傷、外傷、その他の整形外科疾患
6	感染症	感染症総論、細菌感染症

7	感染症	細菌感染症、ウイルス感染症、性感染症
8	消化管疾患	口腔疾患、食道疾患
9	消化管疾患	胃・十二指腸疾患
10	消化管疾患	胃・十二指腸疾患
11	消化管疾患	腸疾患、腹膜疾患
12	肝・胆・膵疾患	肝臓疾患
13	肝・胆・膵疾患	胆嚢疾患
14	肝・胆・膵疾患	膵臓疾患
15	前期末まとめ	整形外科疾患、感染症、消化管疾患の総まとめ
16	前期末試験のフィードバック	前期期末試験の解説
17	呼吸器疾患	感染性呼吸器疾患
18	呼吸器疾患	閉塞性呼吸器疾患
19	呼吸器疾患	拘束性呼吸器疾患
20	循環器疾患	心臓疾患
21	循環器疾患	弁膜症
22	循環器疾患	冠動脈疾患
23	循環器疾患	動脈疾患・血圧異常
24	血液・造血器疾患	赤血球疾患
25	血液・造血器疾患	白血球疾患

26	血液・造血器疾患	リンパ網内系疾患・出血性素因
27	代謝・栄養疾患	糖代謝異常・脂質代謝異常
28	代謝・栄養疾患	尿酸代謝異常・その他の代謝異常症
29	リウマチ性疾患・膠原病	リウマチ性疾患
30	リウマチ性疾患・膠原病	膠原病
31	後期試験前まとめ	呼吸器疾患、血液・造血疾患、代謝・栄養疾患、リウマチ性疾患・膠原病の総まとめ
32	後期試験結果のフィードバック	後期期末試験の解説

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	リハビリテーション医学		
必修選択	必修	（学則表記）	リハビリテーション医学		
開講				単位数	時間数
年次	2 年次	学科	鍼灸科　昼間部	2	32
使用教材	リハビリテーション医学 第 4 版		出版社	医歯薬出版株式会社	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	リハビリテーションの基礎を学び、他の医療従事者と連携する際の基礎知識を理解する。
到達目標	リハビリテーションに関する基礎知識を説明できるようになる。
評価基準	テスト、レポート、授業態度などにより総合的に勘案した結果を基に判定する。
認定条件	出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 成績評価が 3 以上の者
関連資格	はり師、きゅう師
関連科目	臨床医学各論、臨床医学総論
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	小本 竜也
実務経験	○
実務内容	スポーツトレーナーとして、ジュニア世代からシニア世代まで幅広い年齢層を対象に理学療法および運動指導を行っている。

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	リハビリテーション総説	リハビリテーションと障害
2	リハビリテーション総説	リハビリテーション医学と医療
3	リハビリテーション総説	傷害の評価
4	リハビリテーション総説	医学的リハビリテーション
5	各疾患のリハビリテーション	医学的リハビリテーション
6	各疾患のリハビリテーション	脳卒中のリハビリテーション

7	各疾患のリハビリテーション	脳卒中のリハビリテーション
8	各疾患のリハビリテーション	脊髄損傷のリハビリテーション
9	各疾患のリハビリテーション	脊髄損傷のリハビリテーション
10	各疾患のリハビリテーション	切断のリハビリテーション
11	各疾患のリハビリテーション	切断のリハビリテーション
12	各疾患のリハビリテーション	小児のリハビリテーション
13	各疾患のリハビリテーション	骨関節疾患
14	各疾患のリハビリテーション	骨関節疾患、呼吸器疾患のリハビリテーション
15	各疾患のリハビリテーション	呼吸器疾患のリハビリテーション、心疾患のリハビリテーション
16	各疾患のリハビリテーション	高齢者のリハビリテーション

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	衛生学・公衆衛生学		
必修選択	必修	（学則表記）	衛生学・公衆衛生学		
開講				単位数	時間数
年次	2 年次	学科	鍼灸科　昼間部	2	32
使用教材	衛生学・公衆衛生学		出版社	医歯薬出版株式会社	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	衛生学・公衆衛生学の基礎を学ぶ。
到達目標	現代社会における健康の考え方と意義、病気の予防や健康増進について述べることができる。 現代の公衆衛生の取り組みについて述べることができる。
評価基準	テスト、レポート、授業態度などにより総合的に勘案した結果を基に判定する。
認定条件	出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 成績評価が 3 以上の者
関連資格	はり師、きゅう師
関連科目	
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	麻生 寿樹　　実務経験　○
実務内容	鍼灸整骨院、学校附属鍼灸院にて臨床に従事。

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	衛生学・公衆衛生学の意義	衛生学・公衆衛生学とは、衛生学・公衆衛生学の歴史、衛生学・公衆衛生学の活動と意義
2	健康	健康の概要、健康管理
3	ライフスタイルと健康	食品と栄養、運動と健康
4	環境と健康	環境とは、日常生活環境、環境問題
5	産業保健	産業保健の意義、労働衛生行政、労働環境と健康
6	産業保健	労働災害とその対策、業務上疾病とその対策

7	精神保健―精神の健康と精神障害	精神保健の意義、精神の健康、精神障害の現状と分類
8	母子保健	母子保健の意義、母体の健康、乳幼児の健康母体、保護と家族計画、少子化問題と子育て支援
9	成人・高齢者保健	成人・高齢者保健の意義、加齢と老化、生活習慣病の特徴と対策
10	成人・高齢者保健	高齢者の保健福祉対策、介護保険、難病対策の現状
11	感染症とその対策	感染症の意義と種類、発生要因、感染症予防の原則、免疫
12	消毒法	消毒法一般、消毒の種類・消毒の実際
13	疫学	疫学の概念と意義―病気の流行、疾病の頻度の測定、疫学調査研究の段階と実例
14	保健統計	保健統計の意義・おもな保健統計とその意義、主要な保健統計資料
15	期末試験前の統括	授業のまとめ
16	期末試験の解答と解説	解答と解説

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	関係法規		
必修選択	必修	（学則表記）	関係法規		
開講				単位数	時間数
年次	2 年次	学科	鍼灸科　昼間部	1	16
使用教材	関係法規		出版社	医歯薬出版株式会社	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	あん摩マツサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律を学び、はり師、きゅう師の免許や業務に関する知識を習得する。また、他の医療従事者との連携を想定し、医療や福祉の関係法規も併せて学習する。
到達目標	患者の人権に根ざした医療を行うため、業務に必要な法律を理解し順守できるようになる。 インフォームドコンセントを実践できる。 その他の医療従事者の業務を知り、医療チームの一員として活躍できる。
評価基準	テスト、レポート、授業態度などにより総合的に勘案した結果を基に判定する。
認定条件	出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 成績評価が 3 以上の者
関連資格	はり師、きゅう師
関連科目	
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	実務経験
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	法とは何か	法の意義、法の体系
2	あん摩マツサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律	法制定の目的
3	あん摩マツサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律	免許について
4	あん摩マツサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律	試験について
5	あん摩マツサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律	業務について

6	あん摩マツサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律	学校、要請施設、指定試験（登録）機関・罰則
7	あん摩マツサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律	罰則
8	関係法規	医事法規と医療制度
9	関係法規	医療法
10	関係法規	医師法、その他の医療従事者に関する法律
11	関係法規	薬事法規
12	関係法規	衛生関係法規
13	関係法規	社会福祉関係法規
14	関係法規	社会保険関係法規、その他の関係法規
15	総括	授業のまとめ
16	後期末試験の解答と解説	解答と解説

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	経絡経穴概論Ⅱ		
必修選択	必修	（学則表記）	経絡経穴概論Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2 年次	学科	鍼灸科　昼間部	2	32
使用教材	新版 経絡経穴概論		出版社	医道の日本社	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	奇経や奇穴、経穴の取穴など経絡経穴における基礎知識を理解する。
到達目標	奇経の概要の説明や、経穴の取穴部位の暗唱ができるようになる。
評価基準	テスト、レポート、授業態度などにより総合的に勘案した結果を基に判定する。
認定条件	出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 成績評価が 3 以上の者
関連資格	はり師、きゅう師
関連科目	経絡経穴概論Ⅰ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	澤田 侑里　　実務経験　○
実務内容	往診専門の治療院、学校附属鍼灸院にて臨床に従事。

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	奇穴	単一奇穴、複合奇穴などの部位と取穴
2	奇穴	単一奇穴、複合奇穴などの部位と取穴
3	奇穴	単一奇穴、複合奇穴などの部位と取穴
4	奇穴	単一奇穴、複合奇穴などの部位と取穴
5	奇経八脈	奇経八脈の流注、所属穴、主治
6	奇経八脈	奇経八脈の流注、所属穴、主治

7	関連学説	経絡に関する学説
8	関連学説	経絡に関する学説
9	上肢の経穴の部位・取穴の確認	上肢六経の部位・取穴を確認
10	上肢の経穴の部位・取穴の確認	上肢六経の部位・取穴を確認
11	上肢の経穴の部位・取穴の確認	上肢六経の部位・取穴を確認
12	下肢の経穴の部位・取穴の確認	下肢六経の部位・取穴を確認
13	下肢の経穴の部位・取穴の確認	下肢六経の部位・取穴を確認
14	下肢の経穴の部位・取穴の確認	下肢六経の部位・取穴を確認
15	体幹の経穴の部位・取穴の確認	胸部、腹部、背部、腰部の部位・取穴を確認
16	体幹の経穴の部位・取穴の確認	胸部、腹部、背部、腰部の部位・取穴を確認

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	東洋医学概論Ⅱ		
必修選択	必修	（学則表記）	東洋医学概論Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2 年次	学科	鍼灸科　昼間部	2	32
使用教材	新版 東洋医学概論		出版社	医歯薬出版株式会社	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	東洋医学に基づく臨床的な症例分析を理解する。
到達目標	東洋医学に基づいた症例分析を行うことができるようになる。
評価基準	テスト、レポート、授業態度などにより総合的に勘案した結果を基に判定する。
認定条件	出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 成績評価が 3 以上の者
関連資格	はり師、きゅう師
関連科目	東洋医学概論Ⅰ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	麻生 寿樹　　実務経験　○
実務内容	鍼灸整骨院、学校附属鍼灸院にて臨床に従事。

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	東洋医学基礎の復習	気血津液、邪気など東洋医学における弁証の基礎を復習する。
2	東洋医学基礎の復習	気血津液、邪気など東洋医学における弁証の基礎を復習する。
3	東洋医学基礎の復習	気血津液、邪気など東洋医学における弁証の基礎を復習する。
4	東洋医学基礎の復習	気血津液、邪気など東洋医学における弁証の基礎を復習する。
5	気血津液弁証の復習	気虚、血虚、陽虚、陰虚などの復習
6	気血津液弁証の復習	気虚、血虚、陽虚、陰虚などの復習

7	八綱弁証の復習	八綱弁証の復習と弁証トレーニング
8	八綱弁証の復習	八綱弁証の復習と弁証トレーニング
9	臓腑の生理作用の確認	五臓と六腑の生理作用の復習
10	臓腑の生理作用の確認	五臓と六腑の生理作用の復習
11	臓腑の生理作用の確認	五臓と六腑の生理作用の復習
12	臓腑弁証の復習	臓腑弁証と弁証トレーニング、治則について学ぶ
13	臓腑弁証の復習	臓腑弁証と弁証トレーニング、治則について学ぶ
14	弁証トレーニング	各弁証をまとめ、患者の症状をシミュレーションしながら弁証トレーニングを行う。
15	弁証トレーニング	各弁証をまとめ、患者の症状をシミュレーションしながら弁証トレーニングを行う。
16	弁証トレーニング	各弁証をまとめ、患者の症状をシミュレーションしながら弁証トレーニングを行う。

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	東洋医学臨床論Ⅰ		
必修選択	必修	（学則表記）	東洋医学臨床論Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	2 年次	学科	鍼灸科　昼間部	8	128
使用教材	東洋医学臨床論〈はりきゅう編〉		出版社	医道の日本社	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	各種症状・疾患についての現代医学的な考え方と東洋医学的な考え方を学び、 多方向からのアプローチ方法を習得する。
到達目標	疾患に対し、西洋医学的に適応・不適応を判断できるようになる。 疾患に対し、現代的、中医学的に施術の選択ができるようになる。
評価基準	テスト、レポート、授業態度などにより総合的に勘案した結果を基に判定する。
認定条件	出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 成績評価が 3 以上の者
関連資格	はり師、きゅう師
関連科目	東洋医学臨床論Ⅱ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	西川 隆一、麻生 寿樹　　実務経験　○
実務内容	自身の鍼灸院と学校附属鍼灸院にて臨床に従事。

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	治療総論、治療各論	現代医学的な考え方、東洋医学的な考え方、健康医学としての鍼灸療法
2	主要症候に対する鍼灸療法	頭痛
3	主要症候に対する鍼灸療法	頭痛、顔面痛
4	主要症候に対する鍼灸療法	歯痛、眼精疲労
5	主要症候に対する鍼灸療法	眼精疲労、鼻閉・鼻汁
6	主要症候に対する鍼灸療法	鼻閉・鼻汁、脱毛症

7	主要症候に対する鍼灸療法	脱毛症、めまい
8	主要症候に対する鍼灸療法	めまい
9	主要症候に対する鍼灸療法	咳嗽、喘息
10	主要症候に対する鍼灸療法	耳鳴り、咳嗽
11	主要症候に対する鍼灸療法	難聴、喘息
12	主要症候に対する鍼灸療法	喘息、胸痛
13	主要症候に対する鍼灸療法	胸痛、腹痛
14	主要症候に対する鍼灸療法	悪心と嘔吐
15	主要症候に対する鍼灸療法	便秘と下痢
16	試験後まとめ	試験後まとめ
17	主要症候に対する鍼灸療法	便秘と下痢、月経異常
18	主要症候に対する鍼灸療法	月経異常
19	主要症候に対する鍼灸療法	排尿障害
20	主要症候に対する鍼灸療法	ED
21	主要症候に対する鍼灸療法	肩こり
22	主要症候に対する鍼灸療法	肩こり、頚肩腕痛
23	主要症候に対する鍼灸療法	頚肩腕痛、肩関節痛
24	主要症候に対する鍼灸療法	肩関節痛
25	主要症候に対する鍼灸療法	上肢痛

26	主要症候に対する鍼灸療法	腰下肢痛
27	主要症候に対する鍼灸療法	腰下肢痛、膝痛
28	主要症候に対する鍼灸療法	膝痛、運動麻痺
29	主要症候に対する鍼灸療法	運動麻痺、高血圧
30	主要症候に対する鍼灸療法	低血圧、食欲不振
31	主要症候に対する鍼灸療法	食欲不振、肥満
32	試験後まとめ	試験後まとめ

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	社会はりきゅう学Ⅰ		
必修選択	必修	（学則表記）	社会はりきゅう学Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	2 年次	学科	鍼灸科　昼間部	1	16
使用教材	社会あはき学 第 2 版		出版社	医道の日本	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	施術者としての社会的ニーズの多様化に適切に対応できる能力を身につける。
到達目標	社会的ニーズと鍼灸師の役割取り巻く環境を知り、地域で期待される鍼灸師の業務を各自がイメージできるようになる。
評価基準	テスト、レポート、授業態度などにより総合的に勘案した結果を基に判定する。
認定条件	出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 成績評価が 3 以上の者
関連資格	はり師・きゅう師
関連科目	社会はりきゅう学Ⅱ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	村田 清貴　　実務経験　○
実務内容	千歳むらた鍼灸院にて臨床に従事。

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	オリエンテーション、総論	社会的ニーズと鍼灸師の役割
2	鍼灸師を取り巻く環境	現代社会における医療制度
3	鍼灸師を取り巻く環境	現代社会における医療制度と鍼灸
4	鍼灸師を取り巻く環境	医療保険制度の概要
5	鍼灸師を取り巻く環境	介護保険制度の概要
6	鍼灸師を取り巻く環境	鍼灸治療と健康保険の概略

7	鍼灸師を取り巻く環境	鍼灸治療と療養費払い制度の概略
8	鍼灸師を取り巻く環境	介護保険施設業務と介護報酬
9	鍼灸師を取り巻く環境	医療機関における鍼灸師の役割
10	地域で期待される鍼灸の業務	鍼灸治療への期待
11	地域で期待される鍼灸の業務	鍼灸師に求められるもの
12	地域で期待される鍼灸の業務	在宅医療での鍼灸師の役割・在宅医療の注意点
13	地域で期待される鍼灸の業務	鍼灸の効果
14	地域で期待される鍼灸の業務	介護保険制度下での業務・併用するその他の療法
15	期末試験前の統括	授業のまとめ
16	総まとめ	テストの振り返りと総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	実技	科目名	臨床実習前評価		
必修選択	必修	（学則表記）	臨床実習前評価		
開講				単位数	時間数
年次	2 年次	学科	鍼灸科　昼間部	1	32
使用教材	臨床医学総論 第 2 版		出版社	医歯薬出版株式会社	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	臨床実習を実施する前に、十分な知識や技術が身についているかを確認する。
到達目標	医療面接ができる。 理学検査ができる。
評価基準	テスト、レポート、授業態度などにより総合的に勘案した結果を基に判定する。
認定条件	出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 成績評価が 3 以上の者
関連資格	はり師、きゅう師
関連科目	臨床実習 II
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	亀山 千慧　　実務経験　○
実務内容	株式会社 Y’s twin にて臨床に従事。

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法等の説明
2	医療面接	医療面接の基礎、医療面接の始め方、質問法
3	医療面接	医療面接の基礎、医療面接の始め方、質問法
4	医療面接	医療面接の基礎、医療面接の始め方、質問法
5	医療面接	医療面接の基礎、医療面接の始め方、質問法
6	医療面接	医療面接の基礎、医療面接の始め方、質問法

7	医療面接	医療面接の基礎、医療面接の始め方、質問法
8	理学検査	上肢の理学検査
9	理学検査	上肢の理学検査
10	理学検査	下肢の理学検査
11	理学検査	下肢の理学検査
12	理学検査	体幹部の理学検査
13	理学検査	体幹部の理学検査
14	理学検査	神経診察
15	理学検査	神経診察
16	総括	授業のまとめ

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	実技	科目名	応用はりきゅう実技		
必修選択	必修	（学則表記）	応用はりきゅう実技		
開講				単位数	時間数
年次	2 年次	学科	鍼灸科　昼間部	5	160
使用教材	教員作成プリント		出版社		

科目の基礎情報②	
授業のねらい	取穴から刺鍼、施灸までの一連の動作をスムーズにできるようになる。 筋肉や関節、神経に対する、低周波通電治療を中心とした治療法を修得する。
到達目標	正確な取穴、刺鍼、施灸ができる。 目的の筋肉や関節、神経に対する刺鍼ができるようになる。 安全に低周波治療を行うことができる。 安全な衛生操作ができるようになる。
評価基準	テスト、レポート、授業態度などにより総合的に勘案した結果を基に判定する。
認定条件	出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 成績評価が 3 以上の者
関連資格	はり師、きゅう師
関連科目	基礎はりきゅう実技、臨床はりきゅう実技
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	加藤 竜司、西川 隆一
実務経験	○
実務内容	ワロン鍼灸治療院にて臨床に従事。

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	低周波治療器の使用方法、禁忌、注意点など、上肢帯の低周波鍼通電治療	低周波治療器の使い方、禁忌、注意点など 僧帽筋、肩甲挙筋、棘上筋、棘下筋、小円筋、大円筋、後背筋など
2	上肢帯の低周波鍼通電治療	僧帽筋、肩甲挙筋などへの低周波鍼通電治療
3	上肢帯の低周波鍼通電治療	棘上筋、棘下筋などへの低周波鍼通電治療
4	上肢帯の低周波鍼通電治療	小円筋、大円筋、後背筋などへの低周波鍼通電治療

5	上肢帯の低周波鍼通電治療	僧帽筋、肩甲挙筋、棘上筋、棘下筋、小円筋、大円筋、後背筋などへの低周波鍼通電治療
6	上肢帯の低周波鍼通電治療 上腕、前腕の低周波鍼通電治療	三角筋、僧帽筋、上腕二頭筋、上腕三頭筋などへの低周波鍼通電治療
7	上腕、前腕の低周波鍼通電治療	上腕二頭筋などへの低周波鍼通電治療
8	上腕、前腕の低周波鍼通電治療	上腕三頭筋などへの低周波鍼通電治療
9	上腕、前腕の低周波鍼通電治療	上腕筋、長短橈側手根伸筋などへの低周波鍼通電治療
10	上腕、前腕の低周波鍼通電治療	腕橈骨筋、長掌筋などへの低周波鍼通電治療
11	上腕、前腕の低周波鍼通電治療	尺側手根伸筋、尺側手根屈筋、総指屈筋などへの低周波鍼通電治療
12	腰部、殿部への低周波鍼通電	中殿筋、梨状筋などへの低周波鍼通電治療
13	腰部、殿部への低周波鍼通電	大殿筋、中殿筋などへの低周波鍼通電治療
14	腰部、殿部への低周波鍼通電	腰方形筋、脊柱起立筋などへの低周波鍼通電治療
15	腰部、殿部への低周波鍼通電	腰部神経根への刺鍼などへの低周波鍼通電治療
16	腰部、殿部への低周波鍼通電	大殿筋、中殿筋、梨状筋、大腿筋膜張筋などへの低周波鍼通電治療
17	総括	前期授業のまとめ
18	大腿、下腿への低周波鍼通電	大腿四頭筋などへの低周波鍼通電治療
19	大腿、下腿への低周波鍼通電	大腿二頭筋などへの低周波鍼通電治療
20	大腿、下腿への低周波鍼通電	半腱様筋、半膜様筋などへの低周波鍼通電治療
21	大腿、下腿への低周波鍼通電	大腿四頭筋、大腿二頭筋、半腱様筋、半膜様筋などへの低周波鍼通電治療
22	大腿、下腿への低周波鍼通電	前脛骨筋、後脛骨筋などへの低周波鍼通電治療
23	大腿、下腿への低周波鍼通電	長腓骨筋、短腓骨筋などへの低周波鍼通電治療

24	大腿、下腿への低周波鍼通電	前脛骨筋、後脛骨筋、長腓骨筋、短腓骨筋などへの低周波鍼通電治療
25	頭頸部への低周波鍼通電	頭板状筋などへの低周波鍼通電治療
26	頭頸部への低周波鍼通電	頸板状筋などへの低周波鍼通電治療
27	頭頸部への低周波鍼通電	僧帽筋などへの低周波鍼通電治療
28	頭頸部への低周波鍼通電	胸鎖乳突筋、斜角筋などへの低周波鍼通電治療
29	各部への低周波鍼通電の復習	これまでに行ってきた身体各部での低周波鍼通電で、各自練習を希望する部位に施術を行う①
30	各部への低周波鍼通電の復習	これまでに行ってきた身体各部での低周波鍼通電で、各自練習を希望する部位に施術を行う②
31	各部への低周波鍼通電の復習	これまでに行ってきた身体各部での低周波鍼通電で、各自練習を希望する部位に施術を行う③
32	総括	後期授業のまとめ

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	実習	科目名	臨床実習Ⅱ		
必修選択	必修	（学則表記）	臨床実習Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2 年次	学科	鍼灸科　昼間部	1	45
使用教材			出版社		

科目の基礎情報②	
授業のねらい	外部のスポーツ施設や鍼灸院で見学実習を行い、鍼灸師やスポーツトレーナーとしての心構えや実際の業務について学ぶ。
到達目標	鍼灸院・スポーツ施設の実際の業務について説明できる。
評価基準	実習への参加姿勢や実習参加日数、提出レポート等を考慮して決定する。
認定条件	出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 成績評価が 3 以上の者
関連資格	はり師、きゅう師
関連科目	臨床実習Ⅰ、臨床実習Ⅲ
備考	
担当教員	冨永 敦　　実務経験　○
実務内容	明治国際医療大学大学院附属鍼灸センター、学校附属鍼灸院にて臨床に従事。

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります